

# 令和6年度小平市立上水中学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

## 1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

### (1) 教科に関する調査

身に付けておこななければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを生徒が答える調査です。

### (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを生徒が答える調査です。

## 3 各教科の調査結果の分析

### 【国語】

#### 状況の分析

#### 課題

本校の正答率は全国の正答率より、2.9ポイント高い。「言葉の特徴や使い方に関する事項」は全国で4ポイント上回り語彙力が高いとわかる。「読むこと」が全国より2.1ポイント高く、「書くこと」は、全国より4.5ポイント高い。「我が国の言語文化に関する事項」は全国や都に比べ低かった。

「我が国の言語文化に関する事項」の正答率が全国より1.6ポイント低いことから、文字に対する認識を改めてふりかえり、明確に捉えることが課題である。また、古文や漢文を音読し古典特有のリズムを味わうことや、古典の世界に親しむ姿勢を育むことが必要である。

### 学校で取り組む具体的な改善策

言語事項の学習は、12月の毛筆学習に併せて漢字の意味や使用場面をまとめた読み書きを、単元学習の中で、取り立て学習として扱う時間を確保していく。漢字の成り立ちなど、興味関心を高める内容を取り入れ、親しみをもたせながら指導する。古典の学習では音読を充実させる授業を意識して行う。2学期に古典学習が始まるので、授業の中で古文の追い読みやペアによる交代読みなどを重点的に行っていく。また、単元で学習した古典文章の暗唱指導も行う。

### 【数学】

#### 状況の分析

#### 課題

本校の正答率は都の平均より4ポイント、全国の平均より8.5ポイント高い。領域、観点、問題形式でも全てで都と全国の平均よりも高くなっている。調査結果の四分位数では第3四分位数が都の平均と同じであるが、第1、2四分位数は都都全国の平均よりも高くなっている。

正答数の分布状況から、正答数が0問の生徒が都の平均より多くなっている。そのため、本校の正答率は都の平均より高くなっているが、学力の差が大きいことが明らかになった。そのため、基礎学力の定着が必要である。

### 学校で取り組む具体的な改善策

習熟度別少人数指導の利点を生かし、意欲的に取り組める課題の設定や、やる気を引き出す丁寧な指導を引き続き行う。

デジタル教材を活用し、既習事項の確認をできる環境を作っていく。必要に応じて個別に解説を見て理解したり、同じ問題を復習したりする時間を設けるようにする。

○基本的な生活面「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」については全国より 7.8 ポイント低い、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」については全国より 1.2 ポイント高い。「朝食を毎日食べていますか」については全国より 4.7 ポイント高い。

○自己肯定感「自分には、よいところがあると思いますか」については 85.5%が肯定的な回答をし、全国より 2.2 ポイント高く、「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか」についても 2.3 ポイント高い。しかし、「人が困っているときは、進んで助けていますか」については 90%が肯定的に回答したが、全国より 0.1 ポイント低い。

○ICT 機器の利用「1、2年生のときに受けた授業で PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか」については「ほぼ毎日」が全国より 12.8 ポイント高い。また、「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」については全国より 5.5 ポイント低い。

○道徳の授業「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」については全国より 4.1 ポイント高く、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」についても 2.9 ポイント低い。

○朝は学校の登校時間のために同じくらいの時刻に起きたり、朝食は食べている。一方で、塾や習い事、スマートフォンやゲームに費やす時間が長くなっているようで、寝る時間が不規則になっている生徒が見受けられる。スマートフォンやゲームの使用方法や規則正しい生活を送る大切さを指導する必要がある。

○自己肯定感が全国平均より高くなっているが、よいところを見つけられていない生徒がいる。自分のよさを見つける指導をする必要がある。

○学習者用端末を使うことの良さを実感している生徒が多く、使用頻度も高くなっている。また、使うことへの抵抗感をもっている生徒が少なくなっている。今後は家庭、学校での ICT 機器の使用に関して情報モラルの面での指導を充実させる必要がある。

○道徳の授業では、話し合い活動やグループ活動が活発に行われている。しかし、いじめに対しての意識が低くなっているため、いじめに関する授業のより一層の充実を図る必要がある。

### 学校で取り組む具体的な改善策

○基本的な生活面については、保健の授業や保健だよりを通じて生活リズムを整える大切さを指導していく。また、1年生に対しては食育について講師を招聘、講話を聞くことで、食事をとることへの関心を高めていく。

○ICT 機器の使用については、技術の時間や全校集会、安全指導の時間を活用して、適切な使用方法に関して指導をしていく。また、不適切に使用してしまった時の対処方法や悪影響についても指導する必要がある。

○道徳の授業については、いじめに関する授業を各学期に実施しているが、今後も継続して取り組んでいく。